



第三十七号

## 対談 「中島禮子×奥田雅楽之一」

メルマガnoichi37号。今月は対談『中島禮子×奥田雅楽之一』をお届けします。

中島禮子夫人は、初代家元の後妻として、

また唯是震一の実姉として正派に多大な貢献をされた御方です。

また雅楽之一にとっては、親のように愛し育ててくれた恩人でもあります。

私たちもこの度禮子夫人のお話を聞くことが出来て、本当によかったと思っています。

今回は正派初代家元夫人である中島禮子氏と雅楽之一の対談をお届けいたします。

中島禮子夫人は一九二二年のお生まれで、現在満九十二歳でございます。今回は正派副家元の中島一子氏にも同席いただいております。

対談「中島禮子×奥田雅楽之一」をご笑覧くださいませ。

奥田雅楽之一（以下、奥田）…今回は取材ということはいくつか伺いたいことがあります。

中島禮子（以下、禮子）…わかるかしら（笑）



奥田…いえいえ、わかると思います（笑）まず、奥様の生まれから聞かせて下さい。お生まれは北海道の…

禮子…深川ついでところ。

奥田…深川ですね。その後はどちらに行つたんですか？

禮子…旭川。

奥田…旭川でしたね。札幌には。

禮子…札幌には小学校に入るときか、二年生くらいかな。

奥田…二年生くらいで札幌に。それからずっと札幌ですか？

禮子…そうそうそう。

奥田…では女学校は札幌で。

禮子…札幌。藤（札幌藤高等女学校）。

奥田…桜町病院（初代家元が亡くなった病院）のホスピスの看護婦さんが藤の後輩みたいですよ。

禮子…あら、そうなの。

奥田…それで、東京に来たのはいつですか？

禮子…東京に来たのは、いつだったかね、終戦後だけだね。

奥田…飯能（埼玉県）に。

禮子…そうそう。

奥田…お母さんと一緒に。

禮子…そう。母と震一さんとね。震一さんがもう（北海道には）戻らないついでから埼玉に来たの。

奥田…それは、弟の震一さんがアメリカから帰つてきた後の話ですか？前の話ですか？それとも芸大に行つていて頃の話ですか？

禮子…うーん、アメリカから帰つてきた後かな。なんだか昔の話だね（笑）

奥田…飯能では、禮子奥様もお稽古されましたよね。

禮子…そうそう、しましたね。

奥田…それまで何か他のお仕事をしてたんですか？

禮子…北海道では北大の理学部に勤めてたよ。

奥田…具体的にどんなことをしてたんですか？

禮子…理学部で白衣着てた時もあったね。そこは三つに分かれてただけど、植物学科っていうのかな、そこにいた時もあったし、しばらくして徴用に取られるっていうのもまた理学部に勤めたの。

奥田…何年くらい勤めたんですか？

禮子…そうね、二年は勤めたね。

奥田…宮城道雄先生と出会つたのは東京に来てからですか？

禮子…そうです。

奥田…それでお三味線の手ほどきですか？

禮子…（笑）いや、宮城先生に直接お三味線は習わなかったわね。

奥田…お筈ですか？

禮子…そうですね。

奥田…それは宮城先生のご自宅で？

禮子…そうそう中町（現・宮城記念館）のね。

奥田…宮城先生と一緒に演奏したことは？

禮子…ありますよ。

奥田…それはどちらで。

禮子…飯能に来てもらったから。震一さんが呼んだから。

奥田…何弾いたか覚えてますか？

禮子…うーん、なんだか昔のこと忘れちゃったわね。とにかく宮城先生に弾いていただくことが主だった会だったわね。

奥田…中島雅楽之都とご結婚されてからは、市ヶ谷での生活が始まるわけですね。

禮子…そうですね。

奥田…その当時の様子を少し教えてください。だいたい起床時間が何時だとか、覚えてませんか？

禮子…うーん。

奥田：家元の方が早く起きましたか？

禮子：いやー、割合お寝坊だったのよ。

奥田：そんなんですか（笑）朝食の支度などはお弟子さんが全部。

禮子：そう。市ヶ谷来てから、私は食事の用意ってしたとなくった。

奥田：お稽古はどうですか？

禮子：お稽古もしたことない。

奥田：そうですか。お稽古は家元がしてた。

禮子：してたっていうのかしらね。みんなのを聞いてるっていうのかな。

奥田：家元の主な日課は、接客とかですか？

禮子：そうそうそう。

奥田：一日に何人も？

禮子：まあ何人ももの時もあるし、全然来ない時もあるし。

奥田：そうですか。お出かけになることも、しょっちゅうですか？

禮子：それは、三曲協会の仕事があったから。

奥田：靖子（中島靖子）もよく協会へお出掛けになつてますが、やはり当時からあったのですね。一緒について行くこともあったんですか？

禮子：全然ついて行ったことない。

奥田：家元はお風呂が好きってことは有名な話ですね？

禮子：ええ、朝晩入ってます。

奥田：家元が寝る時間は遅かったですか？

禮子：いえ、それでもなかったかな。

奥田：今思い返してみても、当時大変だったことってありますか？

禮子：別に私はしなくてもみんな内弟子さんがしてくれたからね。

奥田：でも家元の身の回りのことは奥様がやってたんですよ？

禮子：そうね。

奥田：家元は骨董品が好きだったですよ？

禮子：そうね、二七不動のお参りの帰りには必ずね。

奥田：荷車持って出かけて行くって話を聞いたことありませんが（笑）

禮子：荷車持って行ったのは私は知らないけれど、まあ、暇つぶしというのかな、お好きだったわね。

奥田：どんなものを買ってくるんですか？

禮子：何でもいいのか、気に入った物があれば（笑）

奥田：僕は初代家元を知らないんですけど、どんな人でしたか？



たか？

禮子：そうね…。

奥田：これだけ正派の会員が増えたのも、家元を慕う人が多かったからなんでしょうね。

禮子：そうですね。割合静かな人だったわね。あまりしゃべらないで、話をよく聞いてたわね。色んな人が色々な事を言ってたけど、あんまりこうしろとか結論は言わなかったわね。

奥田：京都の生まれだったからか最後まで関西弁が抜けなかつたような話を聞いたことがあります。話し言葉はどうでしたか？

禮子：普通だったように思っただけね。

中島一子（以下、一子）：関西弁っていうよりも言葉にこだわりがあったわね。

禮子：そうそう。濁音が嫌で「じんじゃ（神社）」じゃなくて「じんしゃ」とか、「かびん（花瓶）」じゃなくて「かひん」になるの。不思議ね（笑）

奥田：家元の話をもう少しだけお聞かせください。家元が亡くなったのは、僕が生まれた年と同じ昭和五十四年の八月十七日、場所は桜町病院でしたね。その時は病院にいたんですか？

禮子：いました。

奥田：そうですか。何時くらいだったんですか？

一子：明るいうちだったわね。私もいたし、今の家元（靖子）も。みんなが「家元！」とか「先生！」とか色んな呼びかけをするんだけど、奥様が「お父様」って呼んだ時だけ返事したの。

禮子：そんなこと全然知らない（笑）

奥田：ちなみにその時、ベビーだった僕はどこにいたんですか？

一子：どこにいたかしら。病院にはいなかったからお父さ

んと家にいたんじゃないかしら。もう何回か危ないって言われて駆けつけてただけだね。だいたい病院では、日中は誰かしらいるようにしてて。その時は酒井（帥山）先生のお母さんがお当番の時だったのよね。

禮子…そうだったの。

奥田…家元が亡くなられて、未亡人になられてお一人の生活になるんですが、結構長いですよ。もう三十年以上。しかもずっと小金井ですか？

禮子…そうです。

奥田…そのあと実母である菊枝さんが小金井に来ましたよね？

禮子…そうそう。

奥田…その頃のことは、僕も覚えています。

一子…もう初代が亡くなる一年くらい前からちよくちよく菊枝おばあちゃんが手伝いに来てくれたからね。しっかりとしたから、何かあると「お家元」って声かけてよく一緒にいたよね。

禮子…そうそう。休む時は母は二階にいたしね。

奥田…菊枝さんが亡くなってからは、今度は麗（雅楽之一の妹）のことを面倒見てもらって（笑）

一子…そうね、幼稚園や小学校のお迎えとかも行ってらって。

禮子…そうだったわね。

奥田…実の弟である唯是震一について聞きたいのですが、姉として弟の活躍は今まで見守ってこられて、どんな想いがありますか？

禮子…とにかく知らないところでもなんでも、どんどん行っちゃう人だったわね。積極的だった。

奥田…こんな風に音楽家になるってことを、当時は思いませんでしたか？

禮子…うーん、私たちは「男のくせに」ってよく言ってた

んだけど、小さい時からお箏が好きだったわよね。

奥田…お父さんが尺八を吹いていた影響もあったんですね。

禮子…そうでしょうね。

奥田…作曲をするってことに関してはどうですか？当時はまだそういう様子はなかったですか？

禮子…いやー、割合小さい時から、でたらめな歌を歌ってる…と、思えば作曲なのかね（笑）

奥田…なるほど（笑）弟が中島靖子と結婚するわけですけど、特別な驚きとかはなかったんですか？

禮子…音楽学校にも来てたし、別に違和感はなかったわね。

奥田…靖子さんの性格は今も昔も同じですか？

禮子…同じ。お嬢様ですね（笑）

一同…（笑）

禮子…私たちから見ればお嬢様ですね（笑）

奥田…そうですね（笑）震一さんは靖子さんと結婚してよかったと思いますか？

禮子…そうですね。知らないけれど（笑）その時はまだ札幌に住んでたから、よくわからなかったけど。

奥田…最近、禮子夫人の身の回りのことを特にお手伝いしている、一子さん。

禮子…（一子さんを見て）一子さん。

奥田…一子さんがいてくれて随分気分が違いますか？

禮子…そりゃ違うよね。私、今でもね、何でも一人でできないことはないけれども。なるべくしないようにしてる。

奥田…よくご存じの通り中島雅楽之都から中島靖子に継承された「家元」っていうのが、次は一子さんに渡ると思いますが、何か一言応援のメッセージを言っていたらどう。

禮子…小さい時から、そういう生活に慣れてるから大丈夫

じゃない（笑）

奥田…大丈夫ですね！（笑）ありがとうございます。最後に改めて御礼を言わせて下さい。一子、知子（雅枝）、有香（雅楽之一の姉）、智之、麗（同妹）に対し、まるで親のように育てていただいたことを、みんな感謝しています。

禮子…近かったからね（笑）

奥田…いつまでもお元気で。

禮子…はい、ありがとうございます。



↓次ページにつづく

〜おまけ〜

奥田…ところで、普段の禮子奥様は普段どんな生活をして  
いるんですか？

一子…朝起きてお仏壇に行つて、自分の湯呑と…

奥田…あれ。どうして仏壇に湯呑が二つあるんですか？

禮子…あれは菊枝おばあちゃんの分。昔、母が使っていた  
湯呑なの。

奥田…欠かさないことがあるっていいですね。

一子…また、朝晩のお経は欠かさないわよね。その中で、  
中島家、唯是家と親戚の奥田家とか全部の名字を言つて先  
祖代々しゅ、しゅ、しゅせいれいって言つたかな。

禮子…しよせいれい(笑)

一子…諸精霊ね。それを全部読んで、正派の会員と正派の  
縁のある人全部つて毎日朝晩。

禮子…(笑) それは習慣になつて居るのよね。まず朝起き  
たらお茶をあげて、お経をあげて。それからお食事。

一子…ここ十年お食事のメニュー決まつてんのよ。

禮子…おリンゴとヨーグルトとジュース。

一子…それから隣(唯是宅)に行つて、コーヒーを飲む。

禮子…そう。朝は、ご飯は食べないわよ。

奥田…ご高齢で健康な方の生活習慣は、きっと多くの方の  
教訓になります。

禮子奥様は普段ご自宅ではジ  
グソーパズルをして過ごされて  
います…。

奥田…では、どうぞ続きのバズ  
ルを。

禮子…毎日やつてるんだけど  
も、なかなか合わないんだね。

奥田…こっち(見本)は見ない  
の？



禮子…見ないの。

奥田…なぜ見ないの。それは大変だね(笑) 見当がつか  
ないじゃないですか。

禮子…全然見ないよ。もう慣れてるから(笑)

奥田…形で探すんですか？

禮子…そう(笑)

奥田…すごい。

一子…真っ白いジグソーパズルでも出来ると思うよ。

奥田…やつぱは頭が理系なんだね。

一子…そう。この間、車のナンバーで「44-88」を  
「シーシーパーパー」つてこつちで言つたら「あ、倍数  
ね」つて言つたもの。

奥田…それは文系には思いつかないね。

禮子…国語はダメなの。算数だけ好きだったの。

奥田…震一さんはどうですか？

禮子…あの人は劣等生。(笑)

一子…父は「本当に唯是の弟か」つて言われてたらしいわ  
よ。でもある時から勉強するようになったんだよね。

禮子…そうそう。中学に入つてからは勉強してたわね。で  
もそれまでは大学(北大の庭)が近かったから、とにかく  
よく遊んでたわね。

◎あとかぎ◎

じいちゃん子として育つたからか、よそのおじいさんや  
おばあさんであっても、話を聞いていると、なぜだかじー  
んと来てしまう。映画などもおじいさんが出てくるとそれ  
だけでもうたまらない。子どもを育てた人には子ども琴線  
みたいなものができるが、それと同じく、おじいちゃん  
子、おばあちゃん子には、おじいちゃん琴線みたいなもの  
があるのかもしれない。

うちの祖父は大工の棟梁だった。カンナの刃を研ぎがて  
ら、子ども用のナイフなども、使い古したヤスリをさらに  
すり減らして作つてくれた。仕上げにひげ剃りナイフ用の  
最高級の砥石で研いでくれるものだから、紙もすーつと切  
れた。そんなナイフを持っていた子は他にいなくて、自慢  
の一品だった。祖父は何でも自分で作つた。竹箒、シユロ  
の箒、釣りの魚籠に竹の籠。手と足の指を器用に使つて竹  
を編む姿は今でもはっきりと憶えている。そんな祖父は小  
学校の低学年の頃に亡くなつてしまった。元氣なうちに竹  
細工を覚えてもらえばよかったと思うけれど、かなうわけ  
もない。おじいちゃんやおばあちゃんと話ができる人は本  
当にうらやましい。

グラフィックデザイナー (http://www.1368.jp) みやはらたかお

